7月
カトリック麹町教会
MAGIS
『マジス』　―　「より、もっと、さらに」

教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』（教皇フランシスコ）―「ミッション2030」― 新しい協働

「巡礼者」の心

協力司祭　マヌエル・シルゴ

スペイン出身のマヌエル・シルゴです。東京オリンピックが開催される1年前の1963年3月2日にアメリカ経由で日本に来ました。神奈川県横須賀市田浦町にあったイエズス会の日本語学校から私の日本での旅が始まりました。日本語を学んだ後、神学を勉強し、教育と司牧の場で働き、聖イグナチオ教会にたどり着きました。

教会報「MAGIS」に寄稿するのは、今回で2回目です。最初は7年前、ヴィタリ神父様が主任司祭のときでした。当時、私は結婚講座のお手伝いをしていました。週一度の若者たちとの集まりは、今でも心に残る一年でした。

聖イグナチオ教会との関わりは、だいぶ前からありました。1982年から2008年までSJハウスに住んでいました。その間、上智大学、上智大学短期大学部、上智大学、そしてイエズス会日本管区本部に勤務していました。そのときに出会ったイエズス会やイエズス会以外の仲間と学生たちとの素晴らしい思い出が沢山あります。2008年から6年間は上石神井修道院、2014年からは鎌倉の黙想の家で働いておりました。今年の4月に黙想の家が閉鎖されましたので、再びSJハウスに戻り、聖イグナチオ教会のお手伝いをすることになりました。

イエズス会の会憲では、イエズス会員の生き方は、旅人の生き方として書かれています。イエズス会の創立者であるロヨラの聖イグナチオは、自らを「巡礼者」として語り、イエズス会員にも「巡礼者」の心を持つように望みました。イエスのあとを追ってどこにでも行きイエスに導かれるように行動する者が、聖イグナチオにとってイエズス会員のあるべき姿です。

実際には、イエスの弟子であるクリスチャンは誰でも人生を旅する「巡礼者」です。使徒言行録（9：2）では、キリスト信者は「この道に従う者」と呼ばれています。初代教会のキリスト教徒にとって、キリストに従うことはキリストと共に人生を歩むことでした。

「イエスと共に旅する」ことこそが私たちキリスト者の生き方です。主の死に失望してエルサレムを去ってエマオに向かって歩いていた二人の弟子のことが思い出されます（ルカ24：13～34）。イエスは、彼らと共にエマオまで歩きながら、ご自分のことをあかされて彼らを元気づけられました。

私は自分が歩んできた道を振り返ってみますと、共に歩いてきた友たちの記憶が心に鮮明に残っています。彼らは、神が私に与えて下さった最高の贈り物です。その宝物をくださった主と、私にとって神の愛の表現となってくださったすべての方々に心から感謝しています。

聖イグナチオ教会の皆さんと共に歩むことは、神が与えて下さった貴重な機会です。大切にしていきたいと思います。

アビラの聖テレジアがよく言ったように、「神は曲がった線でまっすぐ書く」。今、私たちが受け入れがたいと感じる新型コロナウイルスの大流行は聖テレジアが語った曲がった線の一つであるかもしれません。

このパンデミックの影響を受けている人々とイエスが与えてくださる光と力を分かち合い、共に歩む時が来ました。自己中心になりやすい私たちにとって、これは簡単なことではありませんが、イエスの前に頭を下げて私たちを導いてくださるように一緒にお祈りしたいと思います。

教会報 MAGIS 7月号

- コロナ禍の教会　2頁
- 特別寄稿「診察室から見える風景」　3頁
- 「あしたのいえ」「ユントクハン基金」　4頁
- 教会の今後の対応（6月10日）　5頁
- 訃報（ネメシェギ神父、マウツ神父）　7頁

7月の共同祈願

ロヨラの聖イグナチオを記念する月にあたり祈ります。

私たちが世俗的なものにふりまわされることなく、

聖イグナチオのように、喜んで神に仕える人となりますように。

担当：共同祈願の会

聖堂は今…

▲ソーシャルディスタンスを守りながらのグループ申込みミサ

さまざまな工夫のもとに…

神さまに問いながら歩む　コロナ禍の教会

●四ツ谷おにぎり仲間（土曜日）
主が共に回って下さる

私たちは、コロナ禍においても活動を続けています。それは、路上生活者の方の「命を守る」という使命があるからです。

もちろん、感染の危険はあります。大半の路上生活者の方は、マスクをしていません（ご存じの通り、マスクが街から消えました）。また、歯の悪い方が多く、お話していると、唾が飛んできます。咳をしている方もいらっしゃいます。

ですから、活動に参加するかは、一人ひとりが体調や家族の意見などを考慮し識別しております。参加者が少ない時は、一人でコースを回ることもあります。その時は、主が共に回って下さると思いながら、訪問しています。日々の恵みに感謝です。（高橋早苗）

▲マスクをして主と共に…

●カレーの会（月曜日）
コロナ後への新しい様式

カレーの会は感染下でも継続できるのか。都内の炊き出しが少なくなる状況でこそ続けるべきと、神父さま方の後押しの元、3月から新体制で、継続が決まりました。①厨房作業定員を最大4人に限定②持ち帰り弁当で配布③配布時間は午前7時半から2時間④場所は岐部ホール前エントランス⑤各人密にならず持ち帰る方式⑥スタッフは手袋・フェイスシールド着用が決まり来場者は3月817人、4月693人、5月820人、広域から新顔も急増中です。

容器、米、マスクなどご寄付の形でカレーの会に参加して頂いている皆様に感謝致します。（木嶋真理）

▲李神父撮影

●結婚講座
いま出来ることから

結婚講座の目的は当教会で挙式するカップルのために準備講座を提供することと、講座を通して宣教を行うことです。コロナ禍で約20組の挙式が延期され、講座も従前のようには行えません。そこで、事務室と連携し動画配信とレポート提出という形で講座を進め始めました。同じ時期に結婚する仲間と同じ空間で結婚について考えていただきたかったのですが、いま出来ることから一つずつ歩んでいきます。（高木喜章）

●英神父入門講座（火曜日）
1点の光が示す未来像

英神父の入門講座は、神父が麹町教会着任と同時に始まり、今年で7年目に突入しました。しかし、今年は新型コロナウイルス感染のため、5月からオンライン入門講座が、30名の洗礼・改宗希望者とヘルパーで始まりました。最初は皆不慣れでしたが、参加者各自の判断と決意のもと、真剣な眼差しにすごい集中力を感じました。現在の状況を直視し、何かに動かされたような意気込みの受講生の姿勢に、やがて来る未来像のような一点の光と可能性を確信しました。（木村美智子）

●Sr.野本信仰案内講座（水曜日）
心をつなぐ分かち合い

講座が開催できなくても受講者が共同体から離れないように、心でつながっていられるように…と、シスター野本から毎週水曜日にメールが届いていました。

これを読んだ受講者からＺＯＯＭでぜひ分かち合いたいと提案があり、5月から講座の時間帯にネットを介した会が始まりました。毎週十数名が参加。ネット環境が整わない方々にも、シスターのメールで、様子をお伝えしています。（安蒜悦子）

特別寄稿

寄り添い、助け合い 診察室から見える風景

信徒評議員　石井創（つくる）

「かかりつけ医に診察を断られてしまったのですけれど診てもらえますか。熱が出ているのです」。私の小さなクリニック（内科・小児科）に電話で問い合わせがあったのは、緊急事態宣言の少し前、コロナの感染者数がいよいよ増え始めてきたり、長年人々から慕われてきたお笑いタレントさんの訃報が報じられたりと、国中がいよいよ身構え始めた時期だったと思います。

「すぐにいらっしゃい。診察をしましょう」と、そこまではとてもカッコいいのですが、実際にはたいしたことができるわけではありません。いや医学的には、情けないくらいに殆ど何もできません。渡航歴など一通り確認して、できるだけ丁寧に症状を聴いて、診察をして、念のためにレントゲンを撮り、そして、今は咽頭炎、扁桃炎があるだけで、それ以上に進行している兆候はありませんなどと、現状をわかる範囲でしっかりと話しましたが。

私たちの国の現状では、濃厚接触が明らかな人か、緊急入院が必要な人しかＰＣＲ検査の対象にはならないので、患者さんの容態が急激に悪化しない限りは、これ以上先に進む事はできないのです。

ただ、もうひとつだけできたことは、最後にかけた言葉でした。患者さんの目をしっかりと見て、少し強めの口調で、「何か変化があったら、そして少しでも気になったり不安なことがあったら、すぐに連絡して下さいね」。

道に倒れていた人を助けたサマリア人を見倣うというほどのこともできないのですが、少なくとも道の反対側を知らん顔して通り過ぎるようなことだけはしたくないと思っていました。寄り添うという姿勢をしっかりと伝えることは、決して無意味なことではないと思います。患者さんが帰宅してから、自分ひとりだけで悩み苦しんでいるのではないと感じてほしいのです。

他にもいろいろなケースがありました。微熱が続いている高校生を車で連れてきた父親。熱があるとはいえ、食事もとれる、自分で普通に歩ける高校生の息子。通常なら、車に乗せて付き添ってくる父親はまずいないでしょう。コロナが心配。専門の病院に行くことになるのかもしれない、それならば、そのまま車で連れて行ってやらないと。そう思ったのでしょう。

若い店員のひとりが熱を出して下がらない。「この子は一人暮らしだから心配で」と言って、自ら付き添って連れてきたコンビニのオーナー。コロナの可能性を考えながらも、それを避けずに付き添ってくるのですから、実に良心的で立派なオーナーですよね。

たかが風邪ぐらいでいちいち仕事を休めるか。そもそも忙しくて医者にかかる暇もないというような、働き盛りの人たちも受診してきます。自分のことよりも、誰かにうつすのではないかと心配になるからです。同僚に迷惑をかけられない。お客様にうつすのが心配。お年寄りに接することの多い仕事なので。家には2ヵ月の赤ん坊がいるので。事情はいろいろです。

殆ど全ての患者さんに共通していることは、いつも誰かに心配されて寄り添われていること。あるいは、誰かのことを心配して、思いやっていること。こうしてお互いに気を配り、大切にして、何かできることをしてあげようとする。これは愛し合うことの基本ではありませんか。普段はあまり目立たない、当たり前のことかも知れませんが、コロナ感染のある情勢だからこそ、診察室の中では、そうしたことを目の当たりにすることができます。はっきりと目に見えて、そして耳に聞こえる形で。

「互いに愛し合いなさい」。（ヨハネ15：17ａ）

小さなことの積み重ねではあっても、それが社会全体でどれほど大きな力になるのかを、今私たちは、はっきりと確認することができるのではありませんか。日本の感染者数が、欧米諸国に比べて低く抑えられたこと。犠牲になった方々もおられるのですから、手放しで喜ぶことではありません。そして今後のことは予断を許さないとはいえ、今の段階では、この数字は紛れもなく、動かし難い事実です。そしてこのような現実に向き合うと、あまり敬虔ではない私でも祈らずにはいられません。

召された人たちに
安らぎを。
困難に遭っている
人たちに希望を。
キリストがいつも
私たちと共に
いてくださるように。
そしてみ心が・・・
地にも
行われますように。

教会運営の「あしたのいえ」がスタート

Br. 吉羽弘明

COVID-19は私たちをバラバラにし、私たちのおもいも行動も内向きになってしまったように思います。とにかくまずは自分が助からないとならないので、自分の基準が絶対化し、自分の考えと違う行動をする人を、他者を守るという名目で正したくなります。

確かに動けばリスクがあるから、何もしないことが最良の選択肢となります。しかし、何もしなければ自然に望ましい方向に進むわけでもなく、最近の生活困窮者の増加に関しても同様であるため支援が続けられています。聖イグナチオ教会でも、生活困窮者のための活動は英主任司祭の承諾の下、策定されたガイドラインに則って続けられてきました。

▲「あしたのいえ」プロジェクトスタッフ

2018年度から準備を続けてきた生活困窮者を対象としたシェルター（名称「あしたのいえ」）プロジェクトも、いよいよ本格的に活動が始まりました。様々な理由で居所を失った生活困窮者の一時的な住まいとしてシェルターを提供するもので、教会と契約を結んだ生活困窮者関係団体の利用者が利用可能です（司祭、教会事務室での利用申込は受け付けていません。場所は教会外で非公開）。所属信徒であった故大森淑子さんが「生活困窮者の生活支援」との意向で教会に寄託されたご寄付を元に運用している「マリアテレジア基金」を利用します。昨年度末に基金運営委員会と宣教司牧評議会の承認を得、また主任司祭、信徒評議員、社会福祉関係者も含むシェルター運営委員会が始動し、運営方針などを決めています。

準備段階で私は、カナダのカトリック教会や関係するシェルターを視察しました。トロント市内のほとんどの教会が教会内外で何らかの生活困窮者への具体的な活動を行っており、外部の福祉関係団体とも連携していました。また、韓国のシェルター運営団体を訪問する機会もあり、特に女性への搾取や自己決定の剥奪に果敢に立ち向かう団体の方にも影響を受けました。

訪問の実りからシェルタースタッフには女性を採用し、調度品の選定にはスタッフの意見を重視しました。本年5月下旬から入居受付を開始しています。

活動の性格から直接このプロジェクトにご協力いただけませんが、安定的な活動のために寄付を通してご支援いただけましたら幸いです。お祈りにも感謝しています。

寄付の振込先

郵便振替口座番号
00110-4-252741
聖イグナチオ教会

※必ず通信欄に「援助・福祉基金（あしたのいえプロジェクト）」とお書き添えください。

ユンタクハン基金 創設のお知らせ

当教会信徒であるユンタクハン（尹得漢）さんより、多額の寄付金とともに基金創設のお願いを受けました。彼女は第2次世界大戦中、厳しい状況にあった韓国で生まれ、育ちました。その後、縁があって来日し、結婚され、日本と韓国の間のさまざまな交流活動に力を入れてこられました。昨今の日本と韓国の軋轢を見るにつけ、心が痛むそうです。未来を担う若者が真の平和を願う国際的視野をもったキリスト者になってほしいという願いから、基金の申し出をしたということです。

主任司祭として、この申し出を受け入れることが神のみ旨であると判断しました。現在、教会は若者の育成に力を入れているところです。ワールドユースデーへの参加や、被災地でのボランティア活動を今まで支援しています。それぞれに募金活動を行い、ごく少額の残金をそれぞれ基金としておりました。今回、それらをすべて統合して、ユンタクハン基金（別称：青少年司牧・国際交流基金、通称：ユン基金）とすることにしました。青少年の信仰養成をはじめ、さまざまな国際交流やボランティア活動への参与のために、この基金を幅広く活用していくつもりです。これから若者向けの募金はここに一括して納め、活用していくことにしました。基金は関係する司祭たちで使途などを検討し、財務委員会に適宜報告します。

全イエズス会が取り組む使徒職全体の方向性（UAPs）の中で、一つの柱が「若者とともに歩む」です。今回の基金設立は時宜にかなっているでしょう。

未来を築いていく今の若者たちが福音的価値を身につけ、グローバルな視点から世界平和に貢献してほしいと思っています。皆さまの応援、これからもよろしくお願いします。

主任司祭　英　隆一朗

教会の再開に向けて　今、共に…！

6 月 10 日、菊地功大司教の指針を受け、主任司祭から当教会の活動の再開の方法が示されました。再開に先立ち、6 月 14 日のキリストの聖体のミサの中で、英隆一朗主任司祭は「不特定多数の人々が多く集まるというのが不可能である」ということ、そして「つながりを意識してほしい。来られない方同士も、つながりをしっかりもって」と話されました。また李相源神父は「一人ぼっちの信者のみなさん、教会も頑張りますから、頑張りましょう」と語りかけられました。

教会は、ようやく動き始めました。その様子は、マジスでも今後、順次掲載していく予定です。それぞれの場所で、それぞれの方法で、一つの教会共同体として、共に再開の一歩を踏み出していきましょう。

以下、英主任司祭から示された「今後の対応（6 月 10 日）」です。

聖イグナチオ教会の今後の対応（6 月 10 日）

信徒の皆さま

2020 年 6 月 10 日
主任司祭　英　隆一朗 s.j.

東京都の緊急事態宣言が解除され日常生活が少しずつ戻ってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。さて、東京大司教より、教会再開の第一歩の指針が出ました。それを受け、麹町聖イグナチオ教会の活動は以下のような形で再開したいと思います。

大司教が強調されている要点として、第 1 に、高齢者と基礎疾患のある方には引き続き教会活動を自粛するよう要請されています。高齢者や基礎疾患がある方が感染した場合、重症化し死亡するリスクが非常に高いからです。ご自身の感染リスクを考慮の上、各自の自主的な判断と適切な行動をお願いします。第 2 に、聖堂内では、1､5 メートルから 2 メートルの距離をおいて着席することが求められています。それを遵守するには、700 席ある主聖堂に入れる人数を 100 名ほどに限定する必要があります。そうすると、参加人数をかなり制限せねばなりません。また、当教会は不特定多数の方がミサに集まる特徴があり、もし感染者が出た場合、後追い調査をするのに大きな困難があります。

そのため、当教会としては、公開ミサ（誰でも自由に参加できる形）は再開しません。その代わり、昨年の教皇ミサのように、事前予約をしているグループのみが参加できるミサを実施することにしました。そのグループで参加者の連絡先を把握してもらい、緊急の時に連絡できる体制を整えておきます。最低 7 人のグループからミサ参加を申し込むことができます。

この 2 点を考慮した上で､以下の要領で､6 月 21 日（20 日 18 時の主日ミサ）より限定的活動を再開します。

1．グループによる事前申込のミサ

・ミサに参加するため、まずはグループを作ってください。何らかの活動団体や講座などに属している人はそのメンバーから誘い合わせてください。あるいは、かかわりのある信徒の友人、家族のメンバーなど誘い合わせてグループを作ってください。キリスト教に興味のある未信徒の友人でもかまいません。ただし、他の小教区の信徒は誘わないでください（その人は自分の教会でミサにあずかってください）。
・そのグループの代表者は、主日の定時に献げられるミサに、参加者名簿を添えて、事務室に申し込んでください。1 つのグループは最低 7 名から（最大 100 名まで）申し込めます。
・個人の申込はできません｡必ずグループ単位です。予約なしの参加も認められません。準備が整い次第、インターネットで予約できるような方式にする予定です。
・予約時に、参加者全員の名簿（各自の氏名･住所･電話番号・メールアドレス）の提出が必要です。もし感染者が出た場合、速やかに連絡をとるためです。
・それぞれのミサの定員（主聖堂）は 100 名ですので、100 名になった時点で、そのミサの申込は終了します。満員の場合は、別のミサを申し込んでください。
・外国語ミサは、それぞれのセンター（あるいは担当司祭）に申し込んでください。
・平日の 7 時はミサではなく、自由参加の聖体顕示にしてしばらく様子を見ます。12 時と 18 時のミサは主日ミサと同様に、グループの事前申込を受け付けます（人数を見て、ミサをする聖堂を決めます）。

（6 頁に続く）

（5 頁から続く）

予約がない場合、主聖堂に聖体顕示をする予定です。

・収容人数は、主聖堂 30 名から 100 名まで、マリア聖堂 10 名から 30 名まで、ザビエル聖堂 10 名まで。クリプタ聖堂（追悼ミサや納骨式専用）10 名までです。
・聖堂に入る際は、グループで入場してください。不特定の人が紛れ込むのを避けてください。感染症発生時の対応がとれなくなりますから、ご注意ください。
・万全の感染症対策をとってください。マスク着用は必須です。ソーシャルディスタンスをとって着席ください（席に目印があり）。
・ミサ 30 分、歌唱なし、奉納なし（献金はあり）などマニュアル**（下記囲み内）**を参照してください。
・聖体拝領は、手で受ける形のみです。
・希望する方が全員ミサに参加できるようになるまで相当時間がかかります。1 回ミサに参加したグループは 1 ヵ月以上の間をおいてください。
・ミサに参加できない大多数の方々のために、ミサのライブ中継を継続する予定です。日本語のライブミサは 10 時に、ベトナム語のライブミサは 15 時に変更されます。
・ミサに参加できない方は、自分の分身として折り鶴を教会に送ることができます（1 ヵ月に 1 回程度入れ替えます）。

グループでミサに参加する際のマニュアル
（6 月 10 日）

1．グループ内で役割を決めてください。必要な係は、グループ代表 1 名、会場係 2 名、献金係 2 名、衛生係 2 名の計 7 名です。
2．グループ代表は、事務室との連絡や他のグループとの調整役です。申込の際に、参加者名簿（名前・住所・電話・メールアドレス）を提出してください。
3．会場係は、聖堂入り口（各聖堂 1 箇所）で、入場者のチェックをお願いします。予約してない人が入らないようにして、自分たちのグループの入場を確認してください。欠席者も出るでしょうから、実際に入場した人をチェックして、出欠の記録をミサ後に事務室に提出してください。
4．献金係は、自分たちのグループの献金を安全に集めてください。ミサでは奉納はありませんし、献金袋を回すこともありません。自分たちのグループでミサの前後で献金を集め、ミサ後、事務室にその献金を持っていってください。
5．衛生係は、ミサ前にはグループのメンバーの健康チェックをお願いします。マスク着用や手指消毒などを確認していください。ミサ後、自分たちが使った席などを消毒してください。消毒液は事務室で用意してあります。
6．感染症対策として
　1）聖堂に入る前に手指の消毒をして、聖堂内ではマスクを着用してください。
　2）聖堂入口は開けたままで、換気を心がけてください。
　3）聖堂内では、ソーシャルディスタンスを意識して、席を離してお座りください。席に目印があります。
7．ミサについて
　1）ミサは 30 分ほどで、短い説教のみです。
　2）聖歌は全員で歌いません。ただし、1-2 名の独唱者が歌うのは可能です。
　3）平和のあいさつは、互いに触れ合わないようにしてください。
　4）聖体拝領は、手で受ける形のみです。
8．聖体拝領について
　司式司祭が 75 歳以上の後期高齢者の場合、聖体拝領の時、信徒に直接聖体を授与することは認められていません（大司教より）。その場合、信徒の聖体奉仕者か若い司祭が代わりを務めます。

2．ゆるしの秘跡

・定期的なゆるしの秘跡も再開します。今までどおりの時間帯で行います。毎日、午後 5 時 30 分から 6 時 30 分まで。主日は主なミサの時間中です。
・場所は、主聖堂前室の一番奥のところを仮の告解室にします。
・告解を希望する方は、庭の方から、主聖堂外扉の一番奥の扉前に並んでください（ソーシャルディスタンスをとること）。
・自分の番が来たら、庭から直接前室に入ります。ドアは開けたままにしておいてください。換気をよくしておきます。
・なるべく手短に告解をします。痛悔の祈りは、自分で持参してください。
・マスク着用や手指消毒など、感染症対策には万全を尽くしてください。聴罪司祭は高齢司祭が多いです。万が一感染した場合、重症化と死亡のリスクはとても高いので、くれぐれも慎重な行動をお願いします。
・告解を希望する方は非常に多いと予想されます。多くの人が秘跡の恵みにあずかれるようにご協力ください（目安として、1 回告解をしたら 1 ヵ月くらいの間をとるようにお願いします）。
・2 番目の仮告解室として、マリア聖堂の右側入口も考えています。その場合、告解を希望する人は、2 階のテラス（聖堂前）から岐部ホールにかけて並んでください。

（7 頁に続く）

（6 頁から続く）

3．その他の秘跡

・洗礼式はそれぞれのグループミサで実施してください。ソーシャルディスタンスが保てる人数でお願いします（マリア聖堂で 30 名まで）。なるべく短時間でお願いします。
・結婚式を実施する場合も同様に、ソーシャルディスタンスが保てる人数（マリア聖堂で 30 名まで）でお願いします。
・葬儀は、各聖堂で（参加人数に合わせて）、なるべく簡単に行います。
・追悼ミサや納骨式はクリプタ聖堂になりますので、参加人数は 10 名以下でお願いします。
・いずれも参加者の連絡先を把握し、何かあればすぐに連絡を取れるようにしてください。

4．諸活動

・ミサと同じように、参加者名簿を事務室に提出してください。
・小規模の集まりで、短時間のものは可能です。目安は 20 名以内、1 時間以内です。
・集まる部屋はソーシャルディスタンスを考え、席を空けて座ってください。部屋を予約する際、定員の 1/3 くらいの人数で考えてください（アルペホールで 20 名まで）。
・各自、手洗いやマスク着用など、責任をもって感染症対策をしてください。
・使用後、座席など消毒作業を行ってください。
・大きな行事（20 名以上の者が長時間集まるもの）は開催できません。
・信仰案内講座（20 名以上）を始めるめどは今のところ立っていません。6 月 27 日（土）よりオンライン入門講座の配信を開始します。興味ある方は誰でも視聴できます。
・結婚講座もオンラインで始めます。こちらは受講生のみの限定公開です。

5．その他

・多くの人が懸念するのは、トイレなど個人の出入りが激しいところです。ご使用の際に、一人ひとりが手指の消毒など、感染対策を万全にお願いします。
・ご自身がもし感染された場合、すみやかに教会にご連絡ください。

一杯の愛のお米プロジェクトについて

6 月号でニャー神父が呼びかけました「一杯の愛のお米プロジェクト」の支援・寄付の受付は 6 月 15 日で終了しました。ご支援ありがとうございました。

6 月の宣教司牧評議会から

・6 月 21 日より、非公開のグループミサ（事前予約）と制限付で活動グループの活動を始めます。
・セントロ・クラベールの活動は 3 月で終了し、一部分はセントロ・ロヨラが引き継ぎました。

これから

現段階では、誰でも自由に集まるミサができないことに心が痛みます。不特定多数が集まる大きな活動はできませんが、互いの顔が見える小さなグループは活動できます。今は小さな共同体の絆を深めていく時かもしれません。ソーシャルディスタンスを取りながら、互いの絆を深める関係を大切にしていきましょう。

まずは新しいやり方を始めてみて、少しずつ改良していくつもりです。制約がある中で、皆さんが少しでも参加できる教会の新しい形を模索していきたいと思います。祈り合いと助け合いの心で、ミッション 2030 のテーマである「新しい協働」を実現していけるように、ともに歩んでいきましょう。

訃　報（R.I.P）

ペトロ・ネメシェギ神父

6 月 13 日（土）母国ハンガリーのブタペストで帰天されました。97 歳。
葬儀はハンガリーで執り行われますが、後日、日本でも追悼ミサを行う予定です（日時未定）。
ネメシェギ神父は日本で長い年月、上智大学神学部で教鞭を執られながら、聖イグナチオ教会でも入門講座をされて多くの方に親しまれました。

1923 年 1 月 27 日ハンガリー、ブタペスト生まれ。44 年イエズス会入会。56 年来日。56 ～ 58 年イエズス会神学院で神学を教える。58 ～ 93 年上智大学神学部で神学を教える。64 ～ 70 年、73 ～ 78 年上智大学神学部長。93 年ハンガリーに帰国。修道院院長、神学教授、司牧、著作活動、霊性指導。20 年 6 月 13 日帰天。

ユエルグ・マウツ神父

6 月 19 日（金）聖母病院で帰天されました。79 歳。
葬儀は 6 月 22 日（月）、聖イグナチオ教会で新型コロナウイルス感染症対応により、非公開で執り行われました。
マウツ神父は上智大学でドイツ語を教えながらドイツ文学の研究をされていました。聖イグナチオ教会ではお手製のコーヒーを皆さんに振る舞い「コーヒーの神父さま」として司牧をされました。

1940 年 8 月 26 日ドイツ、シュトゥットガルト生まれ。60 年イエズス会入会。65 年来日。72 ～ 73 年上智大学でドイツ語を教える。73 ～ 81 年ドイツ・コンスタンツ大学でドイツ文学の研究。81 ～ 2011 年上智大学でドイツ語を教える。11 ～ 20 年司牧活動（S.J. ハウス）。20 年 3 月ロヨラハウス。20 年 6 月 19 日帰天。

7 月の典礼と行事

1	（水） 福者ペトロ岐部と 187 殉教者の記念日	
3	（金） 初金曜日	
5	**（日） 年間第 14 主日**	
11	（土）	**2019 年度合同追悼ミサ（1 回目　非公開ミサ）　10：00　主聖堂**
12	**（日） 年間第 15 主日**	子どもとともにささげるミサ（非公開ミサ）　10:00
19	**（日） 年間第 16 主日**	**幼児洗礼式（1 回目　非公開ミサ）　10：00**
22	（水）	**聖イグナチオの取り次ぎを願う 9 日間の祈り（7 月 30 日まで）**
25	（土）	五大陸ロザリオの祈り　15:00　（東京教区主催）
26	**（日） 年間第 17 主日**	**教会活動連絡会議　13:00　ヨセフホール**
31	（金） **ロヨラの聖イグナチオの記念日**	

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。

募集　コロナ禍の社会で献身する方々に「感謝」を

医療・介護・救護・物流・交通機関・生活基盤・レジ・教育などなど…

コロナ禍の最前線で活躍される方々への感謝のひと言を募集します。マジス 8・9 月合併号に掲載予定。

提出期限：7 月 20 日（月）

提出様式：「宛先と本文合わせて 100 字以内 差出人」の様式で

提出方法：教会事務室「感謝係」と明記して、
FAX:03-3263-4585　または
http://www.ignatius.gr.jp のお問い合わせフォームから

幼児洗礼式

7 歳未満のお子様を対象とした幼児洗礼式を行います。オンラインでの準備会があります。

詳細は教会事務室にお聞きください。

7 月19日(日)10 時ミサ
10 月25日(日)10 時ミサ

オンライン入門講座始まる

2020 年 6 月 27 日（土）～ 2021 年 3 月 6 日（土）
毎週土曜日 午前 9:00 配信（全 35 回予定）

講師：ハビエル・ガラルダ神父、岩島忠彦神父、Sr. 杉原法子（援助マリア会）、Sr. 品川ヨシ子（援助修道会）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教会の入門講座を休止しています。入門講座を受講したい方のために YouTube で講座を配信します（全 35 回）。

講座は聖イグナチオ教会の 4 人の講師が輪講する形で行います。

受講方法：聖イグナチオ教会ホームページ、オンライン講座案内から
または YouTube で「聖イグナチオ教会事務室」と検索

～受講にあたってのお願い～

- 日本聖書協会から出版されている新共同訳聖書をご用意下さい。
- 洗礼を希望される方は、公開講座が再開されましたら入門講座のどれかにご参加下さい。
- このオンライン講座を見れば洗礼を受けられるということではありませんが、公開講座が再開されるまでの間はオンライン講座をご覧になり、準備をなさって下さい。
- 配信スケジュールはチラシまたは聖イグナチオ教会ホームページをご覧ください。

主任司祭：英　隆一朗
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　李　相源
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
　　ハビエル・ガラルダ
　　グエン・タン・ニャー
　　マヌエル・シルゴ
ブラザー：吉羽　弘明
シスター：イベッテ・サンチェス
（セントロ・ロヨラ）
　　フロール・フロレーセ
（ジョン・デ・ブリッド　イングリッシュセンター）

ミサの時間　Mass

【平日 Weekday】主聖堂　Main Chapel
7：00 / 12：00 / 18：00

【日曜日 Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18：00/7：00 / 8：30 / 10：00 / 18：00
12：00（English）/ 13：30（Español）

【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Main Chapel　15：00（Việt Nam）
Our Lady's Chapel　12：30（Português）
16：00（Polski）
Xavier Chapel　16：00（Indonesian）

【月の第 3 日曜日 3rd Sunday】
Main Chapel　15：00（Việt Nam）
Our Lady's Chapel　16：30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp
ホームページ　フェイスブック

マジスへのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。